

## ☆視 点

### 米国の繊維産業

米国の製造業界では、最近、シェールガス革命やオバマ政権による製造業の新規雇用創出政策などもあって、「製造業の復権」が頻繁にいられているが、長期縮小を続けてきた米国の繊維産業についても、近年回復の兆しがみられている。

米国の繊維産業は、比較的高率な繊維製品の関税率の維持を前提とし、北米自由貿易協定（NAFTA）等を活用した近隣諸国との相互補完的なオペレーション（米国からメキシコ、中米諸国等に糸・生地を輸出、縫製加工後、製品を米国に再輸入した場合、免税となるスキーム）によってかつては、産業規模を維持することに成功、先進国の繊維産業の生き残りモデルといわれた時期もあった。しかし、2000年代以降、繊維協定の失効、中国のWTO加盟等を契機にアジアからの製品輸入の急増によって、上述のオペレーションが打撃を受け、規模が急速に縮小、2009年のリーマンショックの落ち込みもあって、米国の繊維産業の生産基盤が大きく揺るいでいた。ところが、近年は繊維産業に復活の兆しがみられる。統計データを中心に以下にその概要を記す。

#### 1. 米国のミル消費/最終消費

繊維産業の生産活動をみる指標として、「ミル消費」（紡績・織物など繊維段階に投入される繊維量）がある。

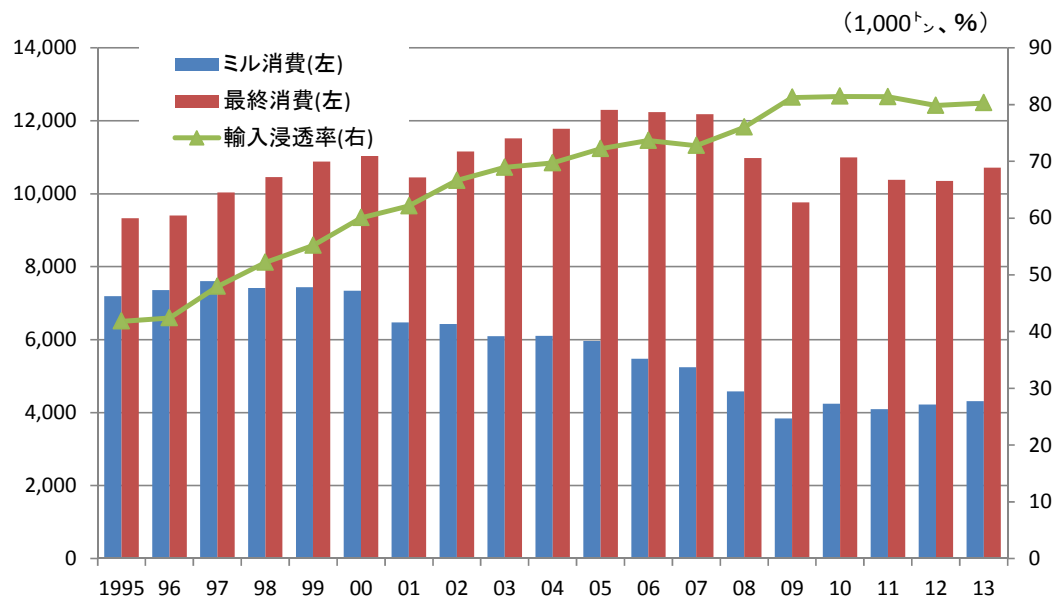
2013年の米国の繊維ミル消費は前年比2.1%増の431万トンとなった。そのうち、化学繊維は3.9%増の362万トン。米国のミル消費は過去最低となった2009年（384万トン）以降、横ばい又は微増で推移しており、2013年は2009年比で約12%の増加となった。但し、ピーク時の1997年（761万トン）からは43%の減少である。

一方、米国の繊維最終消費（衣類、家庭用品など最終段階での消費量であり、その国の市場規模を示す指標）は、2008～09年に大きく減少したものの、その後は比較的堅調に推移している。2013年の繊維最終消費は前年比3.6%増の1,072万トンとなった。また、米国は1人当たりの繊維最終消費量が33.9kgと世界最大規模である。

2013年の繊維製品の輸入浸透率（最終消費に占める輸入の割合）は、前年比横ばいの80%となった。輸入浸透率は、1990年代以降、2009年までは右肩上がりでも上昇してきたが、2009年以降は80～81%で推移している。ミル消費と輸入浸透率の関係をみると、1990年代には、

輸入浸透率が上昇する一方で、ミル消費も拡大していたが、2000年代以降は輸入浸透率の上昇がミル消費の減少につながっている。

### 米国の繊維ミル消費、最終消費、輸入浸透率の推移



(出所)Fiber Organonから作成

## 2. 米国の繊維産業

2013年の米国紡織業界の主要指標は以下の通り。

- 雇用：2013年の繊維産業の雇用は前年比2.6%減の37.3万人となった。そのうち、紡織業（糸、織物など）は1.7%減の11.7万人、紡織製品業（カーペット、寝装製品など）は1.7%減の11.4万人であった。米国の繊維産業の雇用は、2000年代前半に急減、2008年には2000年の半減となり、09年に大幅減となったが、その後の減少は緩やかである。

米国の繊維産業の雇用者数（1,000人、%）

	紡織	紡織製品	衣類	繊維計
2000	379	230	484	1,093
2008	151	147	199	497
2009	124	126	167	417
2012	119	116	148	383
2013	117	114	142	373
前年比	-1.7	-1.7	-4.1	-2.6

(出所) NCTO (以下同様)

2013年の繊維産業の平均賃金(週給)は577.2ドルと前年より0.2%上昇した。生産性の向上もあり、2009年からは11.7%の上昇となっている。但し、繊維業の平均賃金は製造業全体(807.7ドル)より約29%低い水準である。

- 出荷額:2013年の繊維産業の出荷額は前年比4.4%増の700億ドル、うち、繊維業は前年比2.8%増の317億ドル、繊維製品は7.6%増の249億ドルとともに増加した。特に、繊維業については、ほぼ2008年水準まで回復している。

米国の繊維産業の出荷額(100万ドル、%)

	繊維	繊維製品	衣類	繊維計
2008	31,959	26,736	19,145	77,840
2009	26,395	21,430	13,941	61,766
2010	29,383	21,005	13,637	64,025
2011	30,512	22,108	12,862	65,482
2012	30,798	23,156	13,122	67,076
2013	31,657	24,916	13,433	70,006
前年比	2.8	7.6	2.4	4.4

- 繊維品輸出:2013年の繊維産業の輸出額は前年比4.3%増の237億ドルとなった。そのうち、繊維品は4.3%増の179億ドルとなった。繊維品輸出は2009年の126億ドルを底に回復傾向が顕著である。また、繊維品輸出のうち、持ち帰り用輸出(糸、生地等)が多いと推定される中米向け繊維品輸出は88億ドルと2009年に比べ28億ドル増加した。

米国の繊維品輸出(100万ドル、%)

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	前年比
繊維品計	19,736	16,587	19,753	22,404	22,677	23,660	4.3
衣類	4,183	3,945	4,520	5,147	5,539	5,790	4.5
繊維品	15,553	12,641	15,233	17,256	17,138	17,870	4.3
中米*向け	7,491	6,079	7,360	8,712	8,448	8,848	4.7

(注) 中米はメキシコ、中米諸国の計

米国の繊維品市場をみると、近年は、コスト増もあり繊維品輸入全体に占める中国シェアが下落に転じ（中国品シェアは2010年の39%がピーク）、また、積極的な中米諸国とのFTA（CAFTA-DRなど）もあって、近隣諸国からの調達メリットが増したことが、繊維産業のミル消費を下支えしているものとみられる。

米NCTO（米国繊維品製造業者協会）によると、米国繊維業への投資の動きは活発化しており、2014年3月において、過去8ヵ月に報道された米国繊維業界への海外直

接投資は、8社以上が7億ドル以上を新規に投資、将来的に1,900名の新規雇用が予想されている。

米国の繊維産業は、かつて「斜陽産業」といわれ、衰退の道を進んでいたと思われていたが、こうした復活の兆しから、今後再び成長軌道に乗るのか、一時的な回復かどうかその行方は注目される。

（担当：業務調査グループ 鍵山）